株式會社 横河橋梁製作所

営業種目
◇各種橋梁・轉車臺・遷車臺・車輛・鐵骨
○鐵塔・水壓鐵管・起重機・鋼構造物一切
各新改造修理ノ設計・製作・現場施行等急需ニ應ズ

(昭和二十二年八月四日第三種郵便物認可)

土木ニュース

昭和24年5月15日 第31號 (月刊)

發行所 土木學會 東京都千代田區大手町2丁目4番地
編輯兼發行人 奥田[illegible]
印刷人 山口梅吉
印刷所 太平社印刷所
(定價) 5円

昭和24年度公共事業費内譯表 (單位千円)

(区分)	(一般)	(災害)	計
河川	5.942.144	10.932.000	16.874.144
砂防	695.829	20.000	715.829
道路	5.550.210	88.000	5.638.210
都市計画	822.320	123.000	945.320
港灣	3.032.650	763.700	3.796.350
航路標識	242.000	—	242.000
上下水道	99.565	38.800	138.365
農業	6.786.923	3.150.351	9.937.274
山林	2.393.692	1.296.453	3.690.145
水産	539.360	330.000	869.360
住宅	2.957.300	—	2.957.300
行刑	1.300.000	—	1.300.000
文教	1.051.475	144.746	1.196.221
営繕	1.688.270	11.212	1.699.482
合計	33.101.738	16.898.262	50.000.000

解説

廿四年度本予算は四月十六日衆議院を、二十日参議院を通過して成立した。

公共事業費は五〇〇億円で前年度四九五億円(追加予算分六億円を含む)に較べて僅か五億弱の増加である。従つて事業量は前年度の八—九割程度となり、毎年事業縮少の傾向にある。当初政府では約七百五十億円を見込んでいたが、司令部と接渉の結果、完全均衡予算を堅持するため最もインフレ助長の畏れある公共事業費が圧縮され五〇〇億と決まつて、國会に提出された。この予算では六・三制に要する施設費が認められなかつたため、最後迄その内容が確定しなかつたが、遂に補正予算その他で考慮することになり、政府原案で以て成立した。

その事業別内訳は次の通りである。

本年度の公共事業予算編成の方針として、近年災害は加速度に増大の傾向にあり、各種公共施設は極度に疲弊し、國土は疲労荒廃著しく、國民経済の基盤は正に危殆に瀕している事実に鑑み、その重点を治水治山その他防災的工事と各種施設の維持補修とに置き、併せて國民生活と行政的機能の最低限の維持に不可欠の事業のみを行うこととされた。即ち治水治山事業については、その重点を既発生災害の処理から、未発生災害の防止に轉換し得るように考え、山林及び溪流砂防施設の強化、河川の改修及び維持、その他防災的工事を出來るだけ経済的に推進する。その他防災対策として、避難港の増設、燈台及び航路標識の復旧増設、都市計画の重点的施行等に留意されている。

本年新しく考慮されたものは海上保安庁所管の燈台及び航路標識がある。又道路の補修は従來各自管理者の責任において実施されてきたが、戦時中からの荒廃疲労が甚しい上に、地方財政の窮乏に鑑み、特にここ二、三年当分の間を限り國庫が維持補修を助成することとした。

又従來公共事業費の枠内で考えられてきた、失業救済関係の一般及知識階級救済事業、授産補導等の事業は本年から失業対策費として別途考慮計上されることとなつた。

次に土木関係の主なる項目につきその概要を挙げよう。

河川 一般方針に基き治水に重点を置き、利水は必要最少限とした。直轄河川では継続八五本、新規は北上川増補一本で三〇億五千万円。中小河川も同じく災害防禦及び減産防止に効果あるもののみとして継続一六三本、新規一三本、合計一七六本、九億六千万円。北海道では國費河川に五億三千万、地方費河川に四千三百万が充てられている、維持費としては直轄河川継続七本、新規二本に対して二億、災害防除施設費補助として四億二千万円が計上されている。

砂防 砂防は河川改修の基を修めるものであるがダムの築造を主とするためセメント量から考えて事業量が決められた。予算額に於て前年度の約二割増七億一千五百万円。

道路 本年は改良よりも補修に重点を置き、改良は前年度からの引続き上必要なものに止めた。

直轄國道改良は一両年に事業完成して効果を挙げるもののみ六〇粁、関門隧道は本年も維持工事のみである、補修も直轄で行うことになつたが、本年は砂利道要修延長三、七八〇粁中八級の約九〇〇粁を行い、機械の整備をまつて來年より本格的に実施する予定。又舗装補修は要補修延長八〇〇粁中一八〇粁につき先ず行う。

府県道改良は國道の場合と同様で約三〇〇粁につき行う。補修は主として指定府県道を本年は行い砂利道延長五、八〇〇粁、舗装補修は約一、〇〇〇粁の予定。

橋梁整備は全國の木橋二三万橋中耐用年限に達しているものが約五万五千橋あるが本年は主として指定府県道以上の重要橋梁につき架換九〇〇橋、補修一、八〇〇橋とした。又鋼橋については三〇〇橋につき再塗装を行うこととした。

街路についても同様の方針で行われるが、特に疎開跡地整理については重点的に行う。

北海道道路も亦同様の方針の下に改良一四八粁、補修三〇〇粁、木橋架換二〇〇橋、補修二八〇橋、鋼橋塗装五橋を計上した。又開拓道路は開拓事業の進歩に伴い三二〇粁を見た。

港湾 前年度に比して外貿五〇%、内貿四〇%増加すると推定されるので、その輸送計画に対應して最も緊要なる航路、泊地の浚渫に重点を置き併せて既存の施設の復旧維持及び改良を行う。

直轄港湾は外貿関係の横浜港外八港、石炭、鉄鉱石関係の若松港外七港、食糧その他生活必需物資関係の青森港外十六港の整備をそれぞれ実施する。

重要港湾は外貿関係の大阪港外六港、石炭関係の東京港外三港、食料品等の神戸港外廿一港をそれぞれ実施する。

指定港湾は主要港を中心とする輸出工業地帯への輸送力強化に対應する堺港外五七港、避難港として御前崎港外八港の整備を行う。

北海道港湾は外貿及び石炭輸送のための小樽港外三港、地方資源開発のための稚内港外十四港を整備する其の他特に産業上必要な原材料輸送に必要な港湾施設を釜石港外二二港につき整備する。

都市計画 戦災復興区劃整理は重点都市並に地区に限定し、事業の早期完了及び自主施行を目標として実施する、従つて都市数も減らす。

上下水道は自立企業態勢を立前とするが、占領軍の要請による拡張工事、数ケ市町村に亘る特殊工事等につき補助をなす。

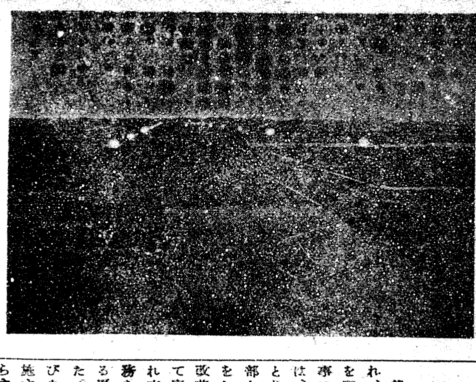
機械整備 河川、道路等の直轄事業の機械化は非常に遅れて居り、且つ現在保有のものも耐用年限に達しているものが多いので、工事能率を向上し、工事原価の逓減を図るため特に土木機械の整備を図らんとするもので、約十一億円を計上した。モータープールを関東及び近畿に設ける予定である。

災害復旧 災害復旧費は累年増加して、過年度災害合計七〇〇億に達する現状であるが、限られた枠内では充分処理し得ない、が一方災害の原形復旧主義は災害の逓減とはならぬので補強改良を加味し改修でも一部考慮し、又所謂災害便乗を整理し、一般事業と調和を看ることに努めた。河川道路の土木災害で約百九億港湾分七億六千万農業災害は農業公共施設に限定し三十一億を計上した。

(奥田生)

完成した多摩川大橋 戦後我國の最大橋 四月三十日開通

櫻田門から五反田を経て横浜市東神奈川に通ずる新京浜國道が多摩川を横断する所、所謂「矢口の渡」に架設された多摩川大橋は幾多の歳月と莫大な資材並びに工事関係者の撓まぬ努力により、ここに完成をみた。この度竣功した多摩川大橋と、近く完成をみる新鶴見橋とにより、復興途上の京浜地区にもたらす利益は測り知れざるものがあると言えよう。詳細は土木ニュース二十八号を参照のこと。



公共事業費五〇〇億円 治水治山等防災工事に重点 道路補修三ヵ年計畫も計上

建設工事本部 撤止さる

終戦後、「運建」といわれ、豊富な技術陣と機械力を駆使して、我國の建設工事に貢献した運輸建設本部は、昨年七月建設省の発足と共に、建設省建設工事本部となり、従來通りの仕事をして來たが、今回官制の改革により、四月一日を以て廃止され、職員はそれぞれ本省、地方建設局等に勤務を命ぜられ、その光輝ある歴史を閉じることになつた。

新刊予約募集

コンクリート標準示方書

昭和六年土木学会鉄筋コンクリート標準示方書が制定発刊され、昭和十一年に一部改訂、引続き昭和十五年に内容全般に亘り大改訂を加えました。しかし今日再び大改訂の必要に迫られましたので当学会では昨秋以來吉田徳次郎博士を委員長として、コンクリート委員会を設け各員の絶大な御努力により三月完成目下印刷中です。本示方書は鉄筋は勿論無筋コンクリート、コンクリート道路、重力ダム、試験方法の五部から成り、特にアメリカの最も新しい示方書の精神を織り込んだ実に斬新なものでありますから土木技術者は勿論他の技術者の方々にも大いに参考になるものと考えます。(用紙割当の関係上部数が少いので成るべく早く御申込願います。)

一、体裁 B6判 約二二〇頁
一、頒布実費 金百八〇円(会員に限り百五〇円)外に送料七五円(まとまつた御申込は安くなりますが後で精算致します。)
一、申込期日 昭和二十四年五月三十一日
一、申込金 申込と同時に全額拂込のこと
一、発行予定期日 昭和二十四年六月下旬

関門鉄道隧道工事誌

本工事は周知の如く隧道工事の最高峰を行くもので軟弱地盤に於ける竪坑沈降掘鑿にあらゆる最新工法を採用特にセメント注入工法、又はシールド工法、圧氣工法等我國最初の工事であり、第一期工事の貴重な体験を生かし、第二期工事に於ては外國のそれに殆んど遜色なき地位にまで到達しました。

本工事誌は第一期第二期の全工事を通し貴重な記録を余す所なく網羅し約八五〇の写眞図表を含む隧道工事誌の決定判であります、戦時中なるが故に部外へは未発表でありました物を当学会が特に運輸省並に版権所有日本鉄道技術協会(JREA)に乞い快諾を得て刊行する物です。部数に制限あり早く申込願います。

一、体裁 B5判 約六七〇頁 フランス装紙
一、頒布実費 八〇〇円但し会員に限り六〇〇円
一、送料実費 七五円(現行規程による)但し取まとめて御申込の場合は安くなりますが後で精算致します。
一、申込金 出來るだけ全額御拂込下さい。若し御都合が悪ければ予約金として三〇〇円御願い致します。
一、申込期日 昭和二十四年五月三十一日
一、発行予定期日 昭和二十四年七月上旬

二冊共御申込は左記へ願います、猶まとまつた御申込は責任者を明記して下さい。又職場班を組織されている向はこれによらると御便利です。

申込先 東京都千代田区大手町二丁目四(省線高架下七号) 土木学会

用語委員會 第一期計畫終る

用語委員会は昨年七月発足以來

第一期—昭和十八年に全國科学技術連合会で決定した用語の改訂

第二期—前者に脱落している用語又は其後使用されるに到つた用語の制定追録

の二段階に別けて福田武雄委員長の許で委員二十二名が殆ど毎週会合を重ねて審議を続けて來たが三月初旬、第一期の計画を完了した。

引続き第二期の審議を続け二十四年度内に新用語集が完成される予定である。

第一期委員会の結果は此度文部省に報告が提出され同省に於いて約一〇〇部のガリ版が作成され関係各方面に回覧意見を求めることになつた。これに対し会員各位の活潑な検討を学会では希望する。

石川榮耀氏博士に

東京都建設局長石川栄耀氏はかねて東京復興都市計画に関する論文を東大第二工学部に提出中の所今般審査完了し、二月十五日附を以て工学博士号を授与された。論文は東京復興都市計画を論じ、都市計画の歴史と地方計画にも及んでいる。

省有機械の有料貸付 建設省

建設省では建設力の綜合発揮のために省有の建設機械を河川道路都市計画其の他の建設事業を行う都道府県市町村建設業者に有料貸与することになり建設省令として建設機械貸付規則が近々定められることになつた。この案の骨子は建設大臣の借受申請書によつて審査の上一年以内の期間を限つて貸与する。運営は各地方建設局が行う。貸付料は機械の價格、と耐用年限修理維持費とを考慮して建設省に於いて各機械毎に一律に定めてある。例えばブルドーザーは時價の四・一%をトラックは六・二%を一ヵ月の貸付料と定めてある。貸付料の最高はさく岩機の九%、最低は船類の一・三%である。本規則を定める主旨から修理費の七〇%は省の負担として貸付料を算定してある。

「建設研究報告」発刊

建設省建築研究所ではその研究発表機関紙「建築研究報告」創刊号を去二月発行した。隔月刊。予約購読制。申込は新宿区百人町四ノ三九四建設省建築研究所。創刊号内容。大都市に於ける日常生活圏の実態調査。規格住宅の作業工数に関する調査。出火の可能性に関する研究。其の他第二号。焼ビル特集号。

第五回年次學術講演會

年次大会については中部支部に於て着々準備中でありますが、本紙並に学会誌により発表されました事項の内三月十六日付中部支部より左の各項につき訂正の申出でがありましたから御報告いたします、

一、会長講演は名大図書館で行い講演会は全部名工専教室で行う見込み

二、ABCD四部門を次の五部門に分ける

A、應用力学、橋梁及一般構造物
B、道路、都市計画、上下水道
C、水理学、発電水力、河川及港湾
D、鉄道
E、土木材料、施工法其の他土木一般

三、整理の都合上参加者申込締切は四月末日であるが出來る限り其の後も受ける予定

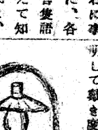
四、申込書に講演会(聴講部門を附して下さい)とありますが之は一部門に限りませんから誤解のない様に願います

五、振替貯金の加入者は名古屋市中区南外堀町愛知県庁土木部道路課内土木学会中部支部であります 振替番号名古屋九四六四

建設 読者の声

我々の如き山間僻地に現場を持つ土木技術者に取つて、下界の便りは正直のところ待たるるものの一たるを失わない。何日か後れた新聞、電氣がないのでラジオはない。級友の訪れる者も絶えてない。その山猿が世界的視野に立つて活躍する「土木ニュース」編集氏に致て所感を呈上したい。編集氏よ、我が言の短見なるを認むるならば、更に有能なる記事に依つてこの妄を開かる可く、敢て我が言を笑い給う事勿れ。

昨年末であつたか風のたよりにK氏が共産党に入党したことを知つた。参議院のK氏である。或は誤傳かも知れぬが—其の後土木ニュースにもかかる記事は一度も出ない様子だから—然しそうだとしたらこうした問題に就いても何か記事を出して欲しい。それとも都会に居ればこうした出来事は動物園のカメレオンが色を変え、夕やけ雲が赤くなるのと同じ判り切つたあたり前の事で記事にならぬと云うのであろうか。土木学会としての態度とか所見とか云うのではなく、会員が如何に考えて居るかと云う世論調査的のものであつても良いのである。私が日常接する外國誌としては毎週送つて來る米國の「タイム」誌のみであるが、流石に事実の正確な報道と共に、各面の人々の意見を片言隻語も或は小さな動作に捉えて知らせて呉れる。編集氏よ、新聞の切抜的記事の羅列をやめて土木界の動きを生き生きとした筆にのせられんことを。試みにK氏の問題に就いて云えば、若い時からマルクス主義を秘かに口にしつつ、無事役人生活も戦時代も過して來た程の時流を見る眼のある氏がいよいよ共産党に入つたのは果して己の為であるか國の為であるかそもそも又眞理の為であるかと云つた事を解明して載き度い。(山猿)



學會だより

○関門鉄道隧道工事誌発行計画—運輸省下関地方施設部ではこの程関門鉄道隧道工事誌を完成したが学会で版権を譲受け六七〇頁の程度のものとして会員諸士に頒布する事になつた。六月頃発行の予定。

○コンクリート標準示方書刊行—昨秋以來吉田徳次郎博士を委員長として進捗していたが三月完成、六月に刊行の予定、今回の示方書は、無筋コンクリート(附録セメントガンによるモルタル仕上げ)鉄筋コンクリート・コンクリート道路重力ダムコンクリートの4部より成り、米國の新しい示方書その他を参照した内容を持ち、標準試験方法をも制定している。B6判、二二〇頁。定價一八〇円。

○水理公式集刊行—目下印刷中。一六〇頁。二〇〇円の予定。

○論文集—第三号(昭和二二・二三年度)論文集は発行ずみ。残部あり、定價一六〇円送料四十円。第四号論文集は六月発行の予定。

○会誌—三三巻五・六号は四月、三四巻一号は五月、三四巻二号は六月発行の予定三四巻三号は目下編集中。

○事務所移轉—かねて会員の待望であつた学会事務所は漸く出来上り四月十三日移轉した。交通便利の場所であり今迄より廣くなるので会員各位の利用を待つている。

○会費値上げ会員の要望に應えて学会の活動を盛んにするために資金の困難打開の為常議員会では或る程度の会費値上げを決定した。

○廣告取扱についての注意—今迄会誌、土木ニュース用の廣告は工業通信社を通してやつていたが、種々の不便があり、この際学会独自で廣告を直営することに理事会で決定した。今後廣告の希望者は学会に直接連絡の事。尚掲載の細目は決定次第発表。会員割引及半カ年掲載も割引の管。

○班組織結成に就いて—会費の納入、刊行物の申込、原稿の依頼等を班を通じて行う計画がたてられた。これに依り節約される経費は班の運営費とする事も出來ると考えられる。前掲の諸刊行物の申込にも之を適用していただきたい。要領としては—、班は連絡に便なる会員のグループとする。二、班には代表者をおく三、班長は会誌の配布、会費その他の徴収を扱う四、学会は班長に諸通報を連絡する五、節約費用は謝礼とする。賛同の各位は、左記事項を記し学会宛連絡願いたい。(1)班の所在地(連絡場所)(2)班長、班員の氏名、住所及移動事項、(3)投稿についても班で相談されドシドシ投稿をお願いしたい。

何、班組織を提案する理由としては、郵便料金の大幅な値上りと共に、学会の財政に対する送料の重圧は予想外のものがある。一例をあげると土木ニュースの印刷代と送料は殆んど同額であるという全く馬鹿げた現象を呈している。その他一冊の本のために予約申込をし、送料を送り又学会より発送の時の高い送料を考えると改善の余地がある様に考えられる。この点のみならず会員間の連絡にも意味が少くないと考えられるので敢て提唱する次第であるかかる試みが全國的に普及する事を学会の発展の為にも御助力あらん事を御願いする。

中部支部だより

三月十二日明治時計会社見学。佐々木支部長以下約八十名の参集を得極めて盛会であつた。三月十五日には支部幹事会開催、第五回学術講演の件につき具体的検討打合せを行つた。何次回の見学は海部郡田子拓工事に決定した。

談話室

新潟地震說は色々な意味で各方面に大きな影響を與えた。地震が予知出來る、出來ないの学問上の論争は別として、相当の学者がある観測の結果に基き発表され、新聞が書きたてると、市民はだまつていないし、それに対して縣市当局も何等か対策を講ぜねばならない。○取敢えず縣は一千万円の震災予防対策費を計上したそうだ。併し何時どの程度の地震がありどんな被害が発生するか予測出來ないのに対策のたてようもないようなものらしい。○併しく、全く嘘でも案している市民の中には、戦時中よろしく、衣料を疎開させたり、夜もモンペイを着て寝たり落付いた生活をしていないものが多いそうだ。襲ならばある程度、時間にも空間的にも予測出來るのだが、それが全く出来ないのだから事の休まるときがない。○更に困つたことには家屋を新増築するものがなくなり大工が昔をあげたり、商業の信用取引が全く停つたことだそうだ。でさえ長期の信用取引がなかなか行われ難くかつたのに、最近では現金取引でなければ全然行なわれないと云う。○それでも少しはいいことがある。政府は緊急救助用の備蓄物料をほんのチョッピリ出してくれたヨ、とは新潟縣N副知事の話。当るも八卦当らぬも八卦ではすまされない。(長)

「土木工學叢書」目録

○概要

名称	土木工学叢書
程度	高等教育を受けた技術者、大学学生の参考書に適するもの
体裁	B5判三五〇頁内外、上製カバー付 活字九ポイン使用
発行所名	批文社
所在地	東京都千代田区西神田二ノ二三
出版時期	二ヵ月一冊平均

科目及著者

科目	著者	
工業数学	東大助教授	雨宮綾夫
應用力学	東大助教授	岡本舜三
土質力学	東大教授	最上武雄
	九大教授	松尾春雄
	北大教授	眞井耕象
	建設技官	福岡正巳
流体力学	東大教授	本間仁
下水道学	名古屋水道局長	杉戸清
土木材料	早大教授	青木楠男

現下の失業對策と公共事業制度

現在わが國で實施されている公共事業制度は、昭和廿一年五月連合軍總司令部から、日本政府に命令された「日本公共事業計畫原則」に基いて實施されている。その原則には先づ第一項に「基礎的必要品の生産、配給を增加し又は促進する事業に重点を置くべきである」とし、又第二項に「能う限り多数の失業者を有效に吸收活用すべきことである」と示されている。即ち公共事業は失業者を長期的復興計画の一部として生産的事業に活用するのが目的であつて、この事業の雇用政策は生産に連絡して、生産目的を遂行するための労働力を供給するにあると考えられる。然るに公共事業の生産性乃至能率向上即ち事業の經濟效果と、失業者を有效に吸收活用する安定效果とは、全然相反する要件ではないにしても相容れる点が洵に尠ないものである。

失業救済に公共事業を以てすることは、從來から屢々行はれて來たことは周知の如くである。近くはアメリカのニューディール政策にしても、ドイツで行われた自動車國道の建設にしても、又わが國で昭和六―七年に實施された時局匡救土木事業にしても、何れも失業救済として廣く公共事業を興した例である。併し失業救済は社会情勢の要請によつて行われるものであるから、その時の經濟事情によつてその対策は大に異なるものである。上記の諸例は何れもデイフレ下におけるものであり、現在われわれが当面している失業対策とは自ら異なづたものである。而して勿論公共事業は失業対策の一環として行われるもので、これが全体的対策ではないことは当然である。と同時に上記の例が必ずしも成功し、失業問題がこれにより解決されたと称することは出來ない。然るに今回も亦失業対策を主要な目的として公共事業が実施されて、既に四年目を迎えんとしている。

昭和廿一年四月当時の失業者の推定はどうであつたろうか。昭和廿年十二月の臨時國民登録の結果を根低としてその後の要件を加味して次の如く推定された。

(一)現在失業者(含潜在) 五〇〇万
(二)復員、引揚等による増加分 八四万

合計五八四万であるが、歸農、石炭増産、進駐軍用務等による就業者約一八三万人を差引き、実に四〇〇万(このうち約八〇万は知識階級失業者)の尨大な數であつた。

これに対して(一)各種土木事業を強力に推進すること(二)臨農計画を急速に実施すること(三)石炭、繊維、車輌等の民間産業を振興すること(四)各種生活関係組織(小運送、新聞通信関係等)を強力に整備すること等の措置によつて救済する方策が樹てられた。

公共事業の実施に際しては、從來慣例的に行われてきた受益農民等の雇用を禁止し、可及的省営事業を増やし、失業者を優先雇用することが決定された。特に失業救済を直接の目的とした事業としては一般及び知識階級の失業應急事業と授産及び共同作業施設事業とが公共事業に取入れられた。

然るにインフレ昂進下にあつては、失業者と推定される者も闇商賣、カツギ屋等によつて不当の利潤を挙げることが比較的容易な爲顕在化せずに潜在して職業安定所の窓口の厄介になる者が極めて少なかつた。たまたま求職する者は、知識階級者が多く、一般の不熟練労務者としては老人か婦人の労働力の極めて低い者しかない。その数から云つても公共事業を希望するものは全体の求職者の一割にも満たない有様であつた。從つて仮例不熟練労務は失業者を以て充足する事業にしても、極めて非能率な作業しか行い得ない有様である。失業救済の実を挙げんとすれば、公共事業の生産性は一部犠牲にせざるを得ない有様である。

公共事業は失業救済を主要な目的として發足したが事実は上述の如くであつて一方においては当初推定されたような尨大な失業者は表面に顕れず、且つ失業者中でも公共事業を希望する者が非常に少なく、他方においては公共事業の生産性を強調され失業救済の実が揚がらなかつた。從來の事績を見るに、

昭二一	七八億円
昭二二	一四七〃
昭二三	四九五〃
昭二四	五〇〇〃

と予算額においては上昇しているが、事業量においては毎年低下している。殊に二一年度は当初各省の公共事業費相当額が約三〇億であつたものが、六〇億に増やされ(後に追加予算があつた)事業実施期間も九月頃から本格的に行われるので、雇用実人員は最も多かつた。

本年度は五〇〇億円で前年度に比較して僅か五億円の増加に過ぎず、從つて事業量においては前年度より二―三割方減少するものと考えられる。その雇用労務者推定は実人員四三万人延人員一億二千万人である。

公共事業の事業内容から考えて見ても、直接不熟練労務者を多数吸收しようと云うのは相当困難である。事業種別で見ると、学校、住宅、刑務所、官廳営繕等の純建築工事が約二五%、港湾、漁港等の特殊技術を余計要する工事が約一〇%等失業救済事業には適せぬものが相当ある。又地域的分布を見ても、山林、砂防開墾等も亦失業者救済とはなり難い。

処で失業救済事業は、知識階級のものは衛生、統計等の事務であり、一般のものは街路、公園等の清掃、戰災跡地の簡易開墾等所謂簡易公共事業と称したもので何等施設の建設は行われず、何れも單なる救済事業に過ぎない。その他授産所、共同作業場等の施設補助にしても実体は職業の補導授産にあるもので、一般の公共事業とは範疇を異にする。從つて本年度からはこれ等の事業は失業対策費として失業保険と共に別途計上され、公共事業費の枠を離れた。本年度の失業対策事業費は八億八百八十円計上されているが、これは前年度実施された人員程度のものが吸收されるに過ぎない。 (奥田敎朝)

懺悔

最上武雄

終戰後、殆どすべての機関の働きが止つて了い、焦土の眞中に呆然として立つていた時、土木学会の立て直しをやろうと言う声が現れた。其結果、定款の改正が行われた。そして研究連絡部と言う新しい部が其時生れた。研究機関と現場との連絡を密にすると言うのが、ねらいであつた。

岡本前部長の後をうけて私が部長になつて既に二年この五月には退任する事になつている。初めの私の希望に反し、無力にして大した事は出來なかつた。

研究機関と現場との連絡と言う事は中々困難な仕事である。研究と言うものは実際に役に立たなければ意義が少い事は当然の事だが現実の問題としては、中々難かしい。一体実際に役に立つと言う事はどんな事かと言う事も人に依つて考えは区々であると思われる。非常に抽象的と思われる研究でも、実際的だと言う人もあれば、実際的に差しせまつた問題の端的な解決でなければ実用的だと考えない人も居る。研究家の方にも色々な人が居て、ひどく抽象的な研究に長じている人もいるし、現実的な問題の解決に天才を発揮する人もある。常識的に考えれば我々の研究としては比較的抽象的でなく、現実的な問題に対して適切な解決を與えるものが望ましいのは当然だが。私達が研究連絡部で月例講演会をやつていた時にも、一方に於て研究室的な比較的抽象的な研究の発表もあつたが、現場に於て困難な問題を解決した工事報告もあつた。此等は共に貴重なものとして平等に取扱つた。しかし実際には工事報告は割合少く、私達を失望させた。今後此方面の発表が活溌になる事を祈つている。研究発表会以外に、特殊な問題に就て討論し、進んでは共同研究をする様な会も欲しいと思つたが遂に作り得なかつた。理屈では、この種の共同研究は理想的な形態かも知れないが、私の経験では実際の運営は大変難しい。

各自の研究している事は夫々の人の独自の目的があつて中々一致するものではない。一致しなくても多少重なり合つた所があれば良い様だが、余程人の組合せが良いか、うまい問題でないと良い結果は生れない様である。この事が、弁解がましいが、私達に此種の委員会を発足せしめる事を思い切つてさせなかつた一因であつた。研究は一体に時間のかかるもので、しかも切りのないものである。私達は研究費を貰う書類に研究終了期日と言うものを書くけれども、実際には終了期日等は無いと言つた方が本当に近い。書類に書く期日は、一應の目安で、ピリオッドと言うよりはコンマ位の積りで書くのである。從つて、此長い期間のどこかにある人々の研究をうまく切り合せると言う事は容易でないのである。尤も、無限の時間をまたねば其研究は役に立たないかと言うと、そんな事はないのである。一年やれば一年なりに役に立つ事はあるのである。唯だ、誰かがやつた研究を使い度いと言う実際家が直ちに現われるか、直ちには現われぬかと言う事はある。前者は幸福な研究者であり後者は不幸な研究者である。兩方の研究者の例は、私達は共に沢山知つている。研究者は不幸な研究者となる事を恐れず邁進すべきであろう。幸福な研究者となる事は望ましい事ではあるが、いつも幸福である事は不可能と思われる。

研究連絡部としては、現場と研究室の両方をにらんでいて、不幸な研究者を少くする様にする事も大切な仕事の一つであつたろう。無力にして、これも今後の問題として残した事は恥じねばならぬ事である。

技術的に新しい傾向とか新知識を研究者側から取つて現場側に提供する事も研究連絡部の仕事の一つである。私達は、そのために月次講演会と夏期講習会を開いた。尤も終戰後は戰争中の学校教育の不足を補う必要もあり新知識ばかりをねらう訳には行かなかつた。

そして、此講習会を開けなかつた人達の便宜のため講習録を作る事を企てたが未だに刊行に至らないのは残念の極みであるし、講師の方々にも申訳ない。

要するに、振り返つて見ると自分の無力の証拠ばかり残つた。会員諸兄の御寛容を祈る次第である。

書評

木構造學

東大教授 福田武雄著

著者が序文に述べている如く、木は土木工学に於て取扱う素材の内で最も重要なものの一つである。しかし我邦に於ては木構造に関する良書に欠けており、その不便さは土木技術者の等しく認める所であろう。かかる時に本書を得た事は土木工学界として喜びに耐えない。本書の内容は木構造に関するキーポイントをすべて網羅し且つ要領よく記述され現場技術者へのよき贈物であると信ずる。特に重要であるにも拘らず從來あまり紹介せられなかつた所の「木材の接合」について多大の力をそそいでいる点は本格的な行き方であり、又木版桁の計算まで論及してある事は特筆に値する事である。

建築学会の木構造計算規準についても言及してあり、土木技術者のみならず建築技術者にも示唆多い事と信ぜられる。 (平井敦)

胎動

行政機構の改革案を見るに龍頭蛇尾の感が深い。一律天引案、一局一課の削減は余りに劃一過ぎることは明かだが、わが國ではその位の事でもやらねば目的を達しないかもしれない。○併しいやしくも一國の機構を検討するならば、根本的にして、合理的な機構としたいものだ。アメリカのフーバー委員会の如きものによつてしつかりと、新憲法下の行政機構が考究されてよい。○現在の機構が跛行的に膨脹した主な原因は経済統制の結果であろうが、その他にも何か機会のある毎に便乗的に尨大となつたものがある。○建設事業については從來は臨時的機構と考えられて來た。事業の性質上全部が経常的機構と云うのもおかしいかもしれないが、現在のように人事院規則やなにかで一般の公務員の身分が保証されている際、建設関係の公務員だけが、事業によつて左右されるのもおかしくはあるまいか。 (白社)

★土木施工機械參考図集 B5・八二頁 價一八〇円 〒一二
○如何なる工事には如何なる種類・型式・容量の機械を選ぶべきか ○それらの構造・性能・寸法及び耐用年限は? ○土工・浚渫・運搬・揚重・コンクリート・隧道・道路・その他の機械について図表で解説

★港灣參考図集 B5・一二一頁 價二〇〇円 〒一二
岡部・鈴木・本間博士他共編
○内地及諸外國の港灣平面図・各種港灣構造物・港灣工事用機械その他の図面・写眞・図表等

財團法人 建設技術研究所
東京都中央区銀座西三ノ一(建築会館) 電話 京橋(56)四三七二 振替口座 東京壹四五七〇五番

セメント・コンクリート 5月号 B・5 三二頁
米國ホローコンクリートブロック工業 藤井光蔵
セメント養生用の恒温槽の組み立て方 常山源太郎
鋼弦コンクリート委員会研究報告― 仁杉巌・大崎順彦
ダムの懇談会記録 セメント生産概要
セメントの配当実績及び配当計画・全國道路利用者会議等
一部二七円 半年一六五円 一年三三〇円 (〒共)

セメント技術年報 B・5版 美麗製本
昭和二二年度 二二〇頁
昭和二三年度 三七〇頁
定價各々三〇〇円(〒二〇円)

東京台東区淺草北松山町40 日本セメント技術協會 振替 東京 196803

土木用具軌條附屬品
シャベル・スコップ・ツルハシ・ハンマー
土呂車輛・レール各種・メタル・ジンクロー
株式會社 名倉商會
東京都中央區日本橋蠣殻町二ノ八 電話 茅場町(66)七九七八(呼)

學會移轉通知

今般左記へ移轉しましたから御通行の節は御立寄下さい。

新住所 東京都千代田区大手町二ノ四
場所は省線ガード下第七号(東京駅又は都電丸ノ内一丁目停留場下車)。
電話丸の内(23)三九四五

学会事務室

路面經濟調査のための道路試驗車について

谷藤正三

道路の改良又は補修を考える場合に、どの程度にならなければ改修しなければならないか或は補修で我慢出來るかということは從來種々論議されて來ているが、まだはつきりした結論を得るまでに至つていないために、結局は多年の経驗的観察によつて計画立案されている状態である。昭和十年以降一般に改修工事も停止されたままに放置されて來た道路は、今我々が当面するような荒廃その極に達した姿になつている。道路補修費は昭和十年度に比較して二倍位になつてはいるが実質的には約五割程度の支出に該当する丈である。昭和十二年以降の不足額を現在價格に換算してみると大体二十三年度で既に五十五億円に達しており、昭和十年程度に道路を維持するためには最小限度の毎年の必要量の外に此の荒廢した部分の復旧を行わねばならないから、これを加算すると五箇年でこれを旧に復すとしても、年間概ね三十億内外の費用を要することになる。橋梁その他の一般公共事業のことも考え合せると、路面だけにこれだけの費用をかけてゆくことは容易なことではない。支出される補修費は何等かの形で例えば車輛損耗度(ガソリン及潤滑油消費量、車輛破損)に対する修繕費、タイヤ費等)等の節約その他で釣合がとれる限界を明かにして最も合理的な計画性を與えることが必要である。それで建設省土木研究所では補修限界の一基準を確立するために、道路局及び総務局資材課の應援を得て道路試験車を用意した。これに設備される測定器具の中主なるものは次の如くである。

(一)ガソリン消費量計(路面種別、路線別ガソリン消費量の比較を行う)
(二)ペドメーター(車輛の振動の程度を重力の加速度と比較し路面の凸凹度を判定する)
(三)バイアログ(路面の凸凹度の大きさ、生ずる回数を調査する)
(四)路盤の耐力強度測定装置(オツシログラフと彈性波発生装置より成り、彈性波動により耐力を判定する)
(五)操縦角記録計(改修未改修、旧路線等につき運行中運轉の疲労度を表示する)
(六)変速数記録計
(七)車輛傾斜計
(八)起面圧測定器
(九)路盤の支持力係数測定装置
(十)加速度計

以上の測定装置を用いて一路線の補修限界を数量的に表示しようとするものである。二十三年度中は予備的に建設省道路局、近畿地建商工省機械試験所と共同で東海道線、及び関西で調査を行つたが大体の見通しも立つたので大々的に本年度は府縣との協同を期待している。器具中(一)(二)(三)(四)は五月中旬迄に整備を終る筈であり、其他は逐次整備する予定で目下試作に着手している。尚自動車の性能試験は商工省機械試験所で担当することになつている。其他府縣の要求に應じて簡易な土質試験も出來るよう準備を進めている。結局調査の重点はガソリン消費量、路面の凸凹度でこれは短時間で表と図で表わすよう目下研究中である。その他、調査測定は府縣の依頼に應じて実施する予定である。府縣に居られる諸兄の御協力を願う次第である。

(建設省土木研究所技官)

道路試驗車

『燒ビル』は果して危險か

四月十六日建築会館で建築学会主催の「燒ビル研究発表会」が行われた。この研究会は北陸震災研究の一部会として生れたもので、特に大和百貨店、北陸配電等の燒ビルの震害に鑑みて設置されたものである。然し土木関係に於ては既に燒ビルを研究し、再検討の要ありとして、昭和二十二年四月から東大、二工を中心に土木研究所、建設技術研究所と協同して以來二ケ年間或は実驗室的に或は現場的に研究して來た問題で、この詳細については土木学会誌三十三巻三号等に掲載されているし、近く何等かの形で二ケ年の研究を公表する予定である。

建築会館で行われた報告を簡單に説明すれば

一、燒ビルの研究概要 内藤教授
調査、診断、補強方法等について問題があることと、今後の耐火建築の設計の資料としたいという趣旨であつた。

二、燒ビルの耐力診断並びに補強方法 建築研究所
火災温度の推定方法(可成り実驗とあろうという話であつた)、結晶水分離による強度低下の推定(実驗数が少いので何とも批判出來ない)、その他補強方法について説明があつた。

三、鉄筋量の檢定 梅村助教授
コイル中を流れる電流変化を利用するもの。

四、戰災コンクリート構造物委員会報告 岡本教授
二ケ年の実驗の結論として、燒ビルの強度低下は否定することが出來ないこと、建物を等級別にして補強方法を考えること、昔の建物では妙な設計のものがあるから注意して補強方法を考えること、火害を受けたコンクリートの材料力学的性質(例えば疲労衝撃、曲げ等)を明かにしなければならないこと。

五、燒ビルの耐震度 谷口教授
ラーメン隅角部の下側の鉄筋の場合に連続して設計すると、おそろしく耐震度が減少することを計算され、今後の設計には壁の耐力、柱、梁を同時に考へたものにしなければならない様に思うがこの点については研究中との事。

六、コンクリート強度試驗法 坪井教授
建物から切取つて、成型して試驗するのでは大変な手数がかかるのに反し誤差も大きいので、任意に切取つたもの(上下面は平行平面)にある面積に載荷して試驗する方法を提案されたもの。

七、大和ビル取こわしについて 大築技師

以上の報告を綜合すると燒けビルを判断する場合には、設計、施工を注意して調査しなければならないが耐震を考慮したものであれば、可燃物の量、窓の大きさから大体火災温度が推定され、或る程度の診断が可能であるが、現在補修して如何にも安全な様ではあるが地震を考慮した場合には先づ強度低下を一大前提にして行かなければならないのではないかと思う。 (文責在記者)

海外ニュース

アメリカの道路交通

一九四八年に於てアメリカの自動車交通は増加した。此の年にアメリカ人は四千百万台の車により三千九百五十億哩(六千三百二十億粁)を旅行したと合衆國公道管理局はみている。一九四七年に於ては三千七百万台の車により三千億哩(五千九百二十億粁)を旅行している。

◎貨車

米國鉄道車輛協会の報告によれば、一九四八年度中に車輛製造会社は十一万二千六百三十四輛の貨車を製造した。これは一九二四年以來の最高の数字で、その一九二四年には一一三、七一一輛が作られている。一九四七年は六八、五五二輛、一九四六年は四一、九五五輛であつた。

貨車製造の注文は年度を通じて九七、一八四輛、四七年は一二一、三〇八輛、四六年には六七、一九三輛であつた。

一九四九年の一月現在の注文数は一〇三、八九六輛で四八年一月には一一九、七八六輛、同五月は最高で一四、六七六輛であつた。

鐵道貨物

米國鉄道協会の発表によれば一九四八年度中に運送した鉄道貨物は六千四百億噸哩にも及んでいる。之は一九四七年度に比べると二、三%減であるが戰前の記録である一九二九年度に比べると四三%の増加である。

又同協会は米國鉄道会社は停車場の改良、設備の新設に十二億五千万ドルを支出したと報じている。

鋼橋

鋼構造物協会の報告に依ると、現在アメリカ合衆國に於て建設中の鋼橋は全部で二、〇六八にのぼる。此の中鉄道橋一六四で残り一九〇四は道路橋である。橋梁及建造物用鋼の生産は一九四八年には総計一七五・五万噸に達したと述べている。

米國の商船隊

米國海運連合協会の発表によれば米國の商船隊は目下一五四六隻千七百三十万噸(排水噸)で、一九三九年には一〇九二隻、九百三十万噸であつた。

同協会は全米の海運業者で組織されているが、その報告では一五四六隻中、一一六一隻は会社所有の船舶で残り三八五隻は政府の船であるがその運行は会社によつて行われている。

米國商船の内容は最近十年間に著しく変化した。一九三九年には一三一隻の旅客船と六百九隻の貨物船と三五二隻の油槽船から成つていたが、現在は旅客船五九隻、貨物船一〇一六隻、油槽船四七一隻になつた。旅客船は一万九千人の旅客を運ぶ事が出來るがこの数字は一九三九年度のほぼ半分である。米國商船協会の調査によれば、一九四九年一月現在で七五隻の商船が発注又は建造の途中にある。

その中六四隻は油槽船で大部分は大型油槽船であり排水噸は二万六千噸及至三万二千噸で、戰時中の規格船一万六千六百十噸に比すれば相当大きい。

新旅客船中にはアメリカンエキスポートラインの地中海航路用の二隻が含まれ一九五〇年の秋完成の予定である。夫々九七二名の旅客を輸送しうる。又アメリカンプレジデントラインの世界一週航路用の客貨船三隻は一九五〇年の中頃完成の予定である。いづれも二二八名の旅客を乗せ得る。

之に加えて一九四八年十二月には旅客二千名、乗組千名、四万八千噸と云う米國始つて以來の巨船の入札が行われた。(CIE提供)

學位授與

東大一工國分正胤助教授と鉄道技研第二部仁杉巌技官の両氏は夫々圧裂試驗を應用した新旧コンクリート打継強度の実驗研究及び鋼弦コンクリート桁の設計法に関する論文で今度目出度く学位を授與された。

東大教授 吉田徳次郎博士著 新刊
コンクリートハンドブック (五月下旬出來)
B6布装六百卅頁図二百・三百八十圓〒卅五円
前篇をコンクリート後篇を鉄筋コンクリートに分ち各設計施工其他総ての事項を現場にも学修にも一覽直に分るよう記述せる斯道の最優宝典

前九大教授 久野重一郎博士著 再版
道路鋪装法 (A5布装) 上下計六八〇頁 図上下計二百版
上巻三百圓・下巻二百圓・送料各卅五円
本書は比較九大土木学教室の援助に依て現在の我國情に適するよう各道路の設計及材料と工事の仕方を独創的の平易説明された理論と実際書

九大教授 鷹部屋福平博士著 新刊
土木建築 骨組構造力學 A5布装 二六〇頁 図百 廿版
骨組技術の理論を詳述 ▼價二百五十圓 〒卅五円

發行 東京文京区東大正門 振替東京二五七〇〇 養賢堂

セメント防水剤 ウオータイト
セメント急結(耐寒)剤 クヰック ウオータイト
カタログ御申込次第送呈
營業種目
コンクリート伸縮目地板
雨漏止ピーバーシール
耐火壁材木毛セメント板
アスファルト防水工事
耐酸アスファルトモルタル工事
日本セメント防水剤製造所製
高山工業株式會社
東京都千代田区神田小川町1―8
電話神田(25)1,301・1,302・3,400

碎石機(專賣特許)
機關車、鉱車
ロードローラー
セメントガン
其他一般土木機械販賣
中古機械再製販賣
熊澤機械株式會社
東京都中央区新富町三ノ一
電話築地(55)一九六一・一九六〇番

學術用語調査會生る
副會長に福田教授

森　茂氏

綜合的で且決定的な学術用語の統一をはかるべく文部省に学術用語調査会が六十名の委員と数百名にのぼる臨時委員とで、四月八日に発足した。第一回の総会の席上会長、副会長の選挙を行つた所、会長には前文部次官有光次郎氏、副会長には東大、二工の福田武雄教授と、東大、農の服部靜夫教授（植物）が当選した委員及臨時委員は各官廳研究所、学会、協会から選出されている、土木関係者としては（○印は委員）

土木学会　○福田武雄氏
　　　　　井上昌平氏
JREA　岡田信次氏
日本道路協会　村上永一氏
港湾協会　山田三郎氏
水道協会　河口協介氏
建設省　○松村孫治氏
建設技術研究所

である。

土木部門は調査会の一環として、本学会の用語委員会が中心となつて活躍するが、最後的の決定は調査会でやることになつている。

調査会としては決定用語を民意に問い、而る後決定する予定で、その結果として従来土木と建築で異つて使用していた用語（例えば鉄筋コンクリートと鋼筋コンクリート）も相当程度修正され統一されて来るものと予想されている。

○東京都土木技術研究会

東京都建設局に於ける土木技術研究会は土木技術研究所の幹部を中心として準備を進めて居たが四月二十五日第一回総会を開催、役員決定後今後の研究会運営に就いて協議した、差し当つて従来の研究項目を各会員より連絡して研究分野の整理を計ると共に、月次講演会に依つて従来の研究の成果を発表する事となつた。道路技術のみならず、都市計画、港湾、河川その他の分野に就いても協力して綜合研究の成果が期待される。

學會だより

○陽春はじめての学会だよりをガード下の新事務所より送る。ガード下といつても元鉄道博物館あとの交通便利の所、今迄の隅田川の景勝はないが集るにははるか便利である。

○前号予告の関門鉄道隧道工事誌は七月上旬発行の予定、一部八〇〇円であるが会員には六〇〇円で頒布。

○水理公式集七月刊行予定

○班組織に就いて前号四面に於いて詳細要領をお傳えしたがその後幸いに本主旨に賛同されて続々と結成の連絡がある。全國各地の会員グループが更に班結成に進まれん事をお願いする。従来ややもすれば会員相互の連絡も疎遠になり勝ちであるが班結成等の手段に依つての親睦を計りたい。

○廣告の取扱について——廣告は従来他に委託して取扱つていたが最近本会直接取扱う事になつた、之に就いて四月二十一日の理事会に於いて次の要領が決定した。廣告の申告は直接本会宛にする事、料金は学会誌は裏表紙は九〇〇〇円表紙及裏表紙の裏は八〇〇〇円裏表紙の裏に対する頁七二〇〇円普通頁六四〇〇円而して六分の一又は八分一枠の時は夫々その割り振りの料金とする。土木ニュースへの廣告は一面突出し及下段五分の一のもの一枠一〇〇〇円、二、三面下段五分の一で七〇〇〇円、四面下段五分の一で一〇〇〇〇円、但し半年契約は五分引、一ケ年契約は一割引とする。

○「支部だより」に就いてお願い——地方の情報の集りが悪くて困つて居ります些少な動きでも結構ですから御連絡下さい。又支部だよりのみならず各分野に於ける研究会見学会等の記事は勿論工事に関する進展等全國的に通信の触手を伸ばさんとして居りますから。

就職難時代來る
學窓は出たけれど

ドッジ公使の声明以来日本の経済界には何か沈滞の空氣が漂つている。希望に満ちて、吹く春風に乗つて目出度く卒業証書は摑んだけれど、その後の現実は未だ春遠しの感が強い。

各会社とも金づまりの余波をうけて経営に四苦八苦「卒業生には氣の毒だけれど実際やつて行かれないので」と言うのは眞実の叫びであろう。それでも民間希望のものは大多数採用されたが、問題は建設省、運輸省である。運輸省でも港湾局はよいらしいが、公務員の行政整理を間近にひかえた建設省では正式には一名も採用しない。運輸省の場合には、十月から三月末日までの間に採用するという話で、運輸省の採用予定のものは新学士十二名である。

◎土木技術史　編集終る

学振を通じて文部省より委託された技術史の編集は旧臘より約四十名の委員に執筆を願い、編集中であつたが此のたび十九章二七〇〇頁（二〇〇〇字詰）に上る原稿を完成し学振に提出した。出版については学振と協議の上時期方法等を決定する。

建設　読者の声

土木ニュース廃止論に反對す

最近土木ニュースが経済的に合わないという理由で廃止すべしという論が高まつて来ている。その論拠は土木ニュースは郵税が半分を占めているし、土木ニュースを廃止すれば三十二頁の会誌が年三冊余計に出版することが出来るという点にある様である。而して土木ニュース的の記事を会誌の折込にするとか、二面、三面で取扱つている様な記事は会誌の原稿にしてしまい、会誌をもつとポピュラーなものにしたいというのである。然し会誌が土木ニュースのもつている味を生かしてゆく事が出来るであろうか。会誌は会員の意向を可成率直に表現している様に思われる。即ち会誌が面白い記事に満される事は勿論編集委員の努力に待つ所大であるが、それよりも会員の思想、センス等が会誌の面白さを生み出しているのではあるまいか。この論点よりすれば会誌の発展は現在の如く土木事業が縮少されている時代と、四兆数千億円という損失の後に於て期待する方にも相当の無理がある。その点土木ニュースは新聞という形態とその氣楽さから来るものとして、自分の世界観なり、一寸した記事でやはり新しい物、これから生れ出て発展すべき何物かを現わしている記事が多い様にうかがわれる。舟にたとえてみれば土木ニュースは波を切つて進んでゆくへさきの方であり、会誌は進んだ痕跡を傳えんとするともの方である。会誌はその時の生れ出たものをまとめてゆく所であり、土木ニュースは新しいもの、敗戦後のくるしみとの闘争に於て体験しつつあるものを書きなぐり土木学会の会員諸兄と共に考え、時代の息吹きを感じ、明日への出発の足掛りにする所ではないだろうか。土木ニュースに対する注文も沢山あろう。ニュースの原稿があまりに中央的であるとか、言いかえれば地方の記事が少いとか、記事が古くあれではニュースではないとか。ニュースのために地方の記事を集めようとした編集委員の努力は相当のものであつたことは認めてよいと思うが、それがうまくゆかず、その結果として中央のニュースが多くなつて来たのではあるまいか。然し前述の如く土木ニュースそれ自身、主目標が新しいセンスを土木界に生み出させる点にある事は見逃す事の出來ない事であると思う。この役割が一郵便料金の値上り等で捨去るべきものではなく、亦会誌により復活される性質のものでもない。郵便料金が高ければ、二号なり三号なりを一しよに送つてもよいであろうし、班組織の大々的活用により或は緩和出來ない事もない。以上の見解により土木ニュースの廃止は明日への出発をおくらせるものであるという主なる理由で一会員として反対するものである。（達田研三）

施工の向上へ

終戦後外地の引揚げ其の他國土の縮少等に原因して請負業者の中に大学出の優秀な人々が就職するようになつて、業者の技術的素質は向上して來た。業者を馬鹿扱いして、箸の上げ下しに文句を言つていたお役人も「民主々義の世の中ですから」と云つた訳で大変くだけて來た様である。然しお役所の機構、法令、慣習と云うものは「雀百まで」とか何とやらで未だ未だ業者には苦手である。監督は良い仕事を（後で責任を問われない様に）したいと思い、業者は安く仕事をしたいと思う。氷炭相容れざるところである。同じ学校出の人でも立場が違うから仕事に対する意見も違う。監督さんの言うことを一つ一つ実行したら道楽仕事になつて了いそうだ。業者に委せれば乱暴極まる仕事をする。労力費の嵩む現在手のかかる仕事はしたくない。お役所は昔しながらのお座いことを言う、何が原因だろう。業者に技術的良心がないと云うのも程度問題で役に立たぬ施工をしようと思つてる訳ではないが成可手を抜きたがる。これからは業者とお役所とが対等の立場で良い安い工事をすることが大事ではなかろうか。それと一番問題なのはやはり入札制度を考える必要があるであろう。技術的に見てどう考えても出來ないような工費が落札するのも考えものである。お役人は業者の勝手だと云う。業者は底なし入札が悪いと云う。兎に角貧乏國のお金を有数に使うためにも土木工事をこんな面から思い切つて改めるべき所が多々あると思う。（芋葉生）

支部だより

○中部支部——三月二十九日支部評議員会を開催、次の事項を決議した。即ち支部長には愛知縣土木部長佐々木銑氏留任、評議員、常議員、幹事、幹事長を決定二十三年度決算報告、支出は七四〇〇〇円となる、二十四年度予算として支出は七万七千円を予定している。五月の第五回年次学術講演会については着々準備中であるが紀念品贈呈は取止めとし他に変更はない。

○北海道支部——事務局を札幌市南五條西十六丁目一三三六の一日本発送電庶務課内齋藤辰二扱と変更した幹部として支部長北海道新聞社長阿部謙夫、幹事長日発北海道支店土木部長岩本常次を決定した。

○西部支部——都合により役員を変更した。

旧支部長　齋藤卯之吉
新支部長　藤田畯五

談話室

予算は事業の生命であるが全体でもなければ、本質でもない。ところが現在は、中央も地方も、本局も現場も、更に試験所も学校も殆んど年中予算で追い廻されている。まるで予算を要求して、獲得するのが事業の本質であるかの如くになつている。○殊に地方の補助予算を当てにしているところでは、八月頃に翌年度の要求資料を提出して、本極りになるのが四月か五月。間もなく又翌年度の資料にかからねばならない。○これでは前年度の実績も、現況調査も出來るものではない。現状として長年に亘る継続予算を組むことは不可能だが、大事な工事、大切な事業であれば資金の心配ばかりせずに落付いて仕事に精力を注ぎ得る態勢が採れないものだろうか。殊に学校、研究所辺りでは、継続ではないが予定を樹て落付いて仕事の出来ることが必要だ。○事情は若干異なるかもしれないが、地方の府縣、都市等に東京に出張所を設けることが流行つている。而して地方からの陳情の斡旋役等やつている。○予算時期ともなると関係方面の陳情團が相次いで上京し極端に云えば、仕事も碌々出來ないこともある。役人の旅費も全体集計すると小さな額でないが、陳情團の旅費その他の雑費等の集計も大きなものだ、某課長陳情團を撃退する手に曰く「諸君は何回も熱心に上京されるが、その費用だけでも〇〇漁港は出來ますョ」（晨）

運輸省施設局工事課電氣機械係編
電動機
A6判　八四頁
頒布實費　一〇〇圓
發送實費　四〇圓
（申込はすべて前金に願います。）
電動機の扱い方について誰にも、わかり易く、やさしく、そして興味をもつように解説したもので電動機（モーター）を使用する作業場、工事現場等には必ず一冊は備うべき良書である。
内容　一、総論＝電動機一般　電動機の種類。二、電動機の機能と構造＝電動機の定格、電動機の出力と能率及び温度上昇、誘導電動機の構造。三、電動機の使い方＝据付。電動機の分解掃除。三相誘導電動機の乾燥法、三相誘導電動機の起動運轉及び停止、保守。四、三相誘導電動機参考資料。五、其他
發行所　東京都中央区京橋一ノ二國際ビル三階（日科技連内）
社團法人　日本鐵道技術協会
振替東京一九六四三三番

土木建築設計並施工
株式会社　**間組**
取締役社長　神部滿之助
本社　東京都港区赤坂青山南町一ノ一
電話赤坂（48）一三〇八—一九
一七九一—三
支店　札幌、仙台、名古屋、大阪、廣島、福岡

土木建築設計並施工
株式会社　**熊谷組**
取締役社長　熊谷太三郎
專務取締役　牧田甚一
本社　福井市豊島上町一（電話一三五五）
東京營業所　東京都新宿区筑土八幡町三
電話九段（33）五〇一—五
支店　横浜、名古屋、大阪、廣島、福岡、札幌

土木建築請負業
西松建設株式會社
取締役社長　西松三好
本社　東京都港区芝西久保櫻川町一三
電話芝（43）表 [illegible]　代 [illegible]
支店　仙台、東京、大阪、熊本

株式會社　横河橋梁製作所
本社　東京都千代田区丸ノ内1ノ2 [illegible]
工場　東京都港区芝浦 [illegible]
營業種目
◇各種橋梁・轉車臺・遷車臺・車輛・鐵骨
○鐵塔・水壓鐵管・起重機・鋼構造物一切
各新改造修理ノ設計・製作・現場施行等急需ニ應ズ

土木ニュース

昭和24年6月15日　第32號　（月刊）

發行所　土木學會
東京都千代田区大手町2丁目4番地
編輯兼發行人　奥田教朝
印刷人　山口梅吉
印刷所　太平社印刷所
（定價）5円

名古屋に開催された　戰後初の年次大會

去る五月二十一日、二十二日の二日間第五回土木学会年次学術講演会が中部支部の絶大なる骨折によつて盛大に名古屋工大を中心に開催された。

講演者総数百有七名、参加者五百名という盛会ぶりであつた。

過去の年次大会はいずれも戦前であり、第一回は関西支部主催で昭和十二年京都に於て、第二回は昭和十三年北海道支部が北海道で第三回は西部支部の盡力によつて、昭和十六年に九州帝國大学に於て開かれ昭和十九年には東北支部主催で第四回年次大会が東北帝大を借りて催されたが今回は正に永き眠りよりさめた敗戦後初の年次大会であつた。

二十日の雨もあがり、会期の二日間は全く晴天にめぐまれ、講演会に、園遊会に、見学会に有意義な大会を盛会裡に終る事が出來たのであるが物資不足の折柄会員の接待に、或は会場の準備に遺憾なきを期せられ東山公園の園遊会には模擬店が出たりして会員の親睦この際一段と深まり、亦見学会には到れりつくせりの應待に、大会出席者は廣瀬副会長の講演にもあつた如く中部支部の佐々木支部長以下の今回の御盡力に対し感謝の念で、その表現を知らない状態であつた。

二十一日午後一時名大医学部講堂で、開会式が挙行され佐々木支部長、岩沢本学会長代理廣瀬副会長の中部支部への感謝の辞と学会の活動一般についての報告があり、祝辞として愛知軍政部のケリー中佐が学会諸兄の一段の御奮斗を望むとの講演があつた。次いで午後一時四十分より講演会に移り、四時過ぎ第一日の日程を終え、午後五時より東山公園に於ける園遊会に移つた。ここで会員互に打とけて、大会の氣分を満喫して第一日の行事を無事終了した。第二日は午前九時より前日と同じく名古屋工業大学（名古屋工専）で各部内に分れて研究の発表会を十二時まで行い、午後は四班に分れ、名古屋港見学、岐阜忠節橋、犬山木曾川視察或は伊勢参宮に名古屋鉄道、岐阜工事部、建設省地方建設部の御厄介になつて大会の幕は午後五時頃盛会裡に明日への土木の発展を期しつつ閉じられた。

学術講演会をふり返えつてみると、講演者（大学関係五二名、高専十六名、官廳関係三二名、民間七名）がA（應力）、B（道路、都市計画上下水）、C（水関係）D（鉄道）、E（コンクリート、その他）に分れたのであるが、講演申込者が多数であつたため、各部会を或は区分したものもあつたほどで、且行事が沢山のため討論は殆んどなかつた。然し発表方法に於て研究すれば、與えられた時間に於ても十分の討議が出來たのではないかと考えられ、講演者の発表方法は今後の大会に於て注意すべき事であると思う。然し今次大会は戦後初の大会であり、その点講演会が重要なテーマの開陳及び中間報告程度に止まつていたのは止むを得ない事であるが、世界のレベルに早く到達する様今一層の努力をしなければならないと同時に、次の大会に於ては敗戦後のコントンさを全く脱却した論文の発表されるのを期待する次第である亦土質工学関係の発表がふえ、且熱心に討議されたのも一特徴であると同時に、河川関係の聴講者が多数で席がないほどであつたのもみのがせない現象であつた更に今次の大会のテーマを見ると研究テーマが現場的になつて來た点も著しい点であるがこの様なテーマは一個人の研究者にのみまかしていたのでは、いつまでも中間報告程度に終る危険性があり、各専門家の協同研究の形にする必要性が痛感された。

第五回年次大会は中部支部の非常な御努力によつていくたの收穫を残して栄ある幕を下したが、会員にはよき反省の機会と明日へのエネルギーの源泉となつたことを特記して大会の報告を終ることにする。

測量法案衆議院通過　五月十七日公布さる

今議会に建設省（地理調査所主管）から測量法案が提出され五月十七日衆議院にて可決公布された。その要旨は次の通りである。

一、目的（第一條）國又は公共團体の行う「土地の測量」についての実施の基準（第一一條位置及び大いさ等基本的数値計算の基礎）及びこれに必要な権能（一四—二〇條実施及立入の手続）を與え又測量の重複を除き且つ測量の正確さを確保して各種測量の調整及び測量制度の改善を計らんとするものである。

二、測量の種類（第四—六條）を分つて基本測量（地理調査所〔所管〕）公共測量（國又は公共團体の行う重要な土地の測量）と其他の測量（上記の成果を用いて行うもので指定されたもの）とに分つ。

三、測量の正確さを確保し又重複をさけるために測量作業規定及び測量計画を予め建設大臣に届出で（第三三—三七及び四五—四六條）これに対し地理調査所長は技術的助言其他必要なる調査をする。又測量の成果の届出、公表、保管及び閲覧謄写使用等の必要な規定が定められている（第二七—三一及び四六—四四條）

四、測量従事者は地理調査所に登録した測量士（補）でなければならぬ。その資格は大学、専門学校卒業等其他の測量を修めたもので且つ一定年限の経験者又は試験合格者等である（第四八—五四條）

五、罰則、第三者の妨害、毀損及び測量者の不正測量及び基本測量標の無断使用等は種類により懲役及罰金の刑罰が定められている（第六一—六五條）

六、附則、施行は公布の日から九〇日以内で測量士（補）の無登録者には一ヵ年の猶予がある。この法案について五月九日参議院建設委員会にて参考意見聴取が行われ本会代表として鉄道総局、施設局桑原技官が出席し利用者の立場として大要次の如き証言をした。

（第二番）

一、趣旨は結構であるが煩鎖であるから簡単にされたい。

二、事業の機密に持よ、本法の測量とは地形、地物の測量に限り設計、計画の測量を除かれ度い（散会後地理調査所長より然る旨説明があつた）

三、簡易化と政府機関対等の立場上、事前の承認（第三六條）及び事後の成果の審査（第四一條）は届出（連絡）及び整理とされ度い。

四、四等、三角点二等、三等、水準点標石を全國に普及せしめられ度い。

五、縮尺を全國的に統一し、二及び五の倍数とされた。

六、測量士（補）は間口を廣くし中等、工業学校の測量修了者も経験により測量士補とされたい。

七、罰則は重すぎるものもあり、資格停止の軽い罰も作り又関連不正行為（例詐欺）は資格剝奪を加重すべきである。

尚他に会員より港湾局天埜計画課長も出席し趣旨は賛成水面も含めよ、工事のための測量を除けと証言した。（第五番）

他に一、坪井（東大教授地理物理学）三、福島（農林省農業関係）四、嚢田（農林省林野局）六、須田（水路局長）七、團部（地図業者）の五氏の証言があつた。

新學制に伴い　官立工専昇格す

六三制実施にともなつて専門学校が廃止されるため、その帰属が問題となつていたのであるが、土木工学科を有つている官立工専は全部昇格して新制大学の工学部土木工学科として発足することになつた。（國立大学設置法が國会を通過した）各校の細目、教官の審査については、新制大学設置委員会の特別委員会の分科会で決定されるのであるが、大体は、新制大学に吸収されるものと考えて差支えない様である。

一、仙台工専は東北大学の工学部に合流されるが、東北大学には既に工学部があつたため、仙台工専と重複している学科は縮減される様であるが、土木は全然変化ない様である。

二、山梨工専は山梨大学工学部の土木工学科として発足するが、採用人数は三十名である。

三、名古屋工専は名古屋大学に工学部があるため、合同困難になつたが、名古屋が日本の四大工業地域の一であるという特殊性と、愛知工専が他にあるために、名古屋工業大学として名古屋大学と併立して設置されることになつた。尤も名称については愛知工業大学との案もある様であるが、名古屋工業大学におちつく模様であり、一縣一大学の原則の例外として出來る大学である。採用人員は四〇名である。

四、神戸工専は神戸大学工学部の一学科として発足する。採用人員は三五名。

五、徳島工専は徳島大学工学部の中で産声をあげる。

六、熊本工専は五高、熊本医専等と共に熊本大学を作つて生れるが、この、工学部では土木建築で一学科を作り、採用人員は合せて四〇名である。

七、金沢工専は土木、機械工業化学、化学機械の四学科で金沢大学の工学部として発足する。採用人員は三〇名であるが、本大学にはこの他特に第二工学部（夜間）を設置する点が他の大学と異つている点である。

この他縣立、市立の工専で土木をもつているものも國立の新制大学に入るものもある。又一縣一大学であるので土木も可成りふえる他私立でも中央大学に土木工学科が設置される等の形勢にある。

科學研究費の配分　學會で審議さる

今年度から科学研究費が学界を通して、決定されることになつた。これは学会史上に空前の事である。審議会の主席者は学術研究会議から会議員の安藝皎一氏大坪喜久太郎氏、各大学から一名、建設技術研究所からは内海清温氏が出席して五月十六日東大、第一工学部土木会議室で開催された関係方面の指示によつて、運輸省及び建設省の研究所は科学研究費の配分を受けられぬ事になつて居た爲出席しなかつた。

本年度の科学研究費二億円の内割当られた額は六千百万円、その内土木工学関係の研究費として四百七十八万円で、これまでの配分は学術研究会議で決定したものである。学会としては與えられた四七八万円の配分の審議会を開いたわけである。甲論乙駁した結果の配分は左記の通りである。

東大一工	五五万円
東大二工	五八万円
京大	六七万円
九大	六一万円
阪大	二七万円
早大	三〇万円
日大	三〇万円
高専	五五万円
建設技術研究所	二〇万円
未決定分	二〇万円

高専の五五万円は題目によつて更に区分することになつた。尚詳細は次号掲載の予定である。

御申込になりましたか？
今からでも遅くありません！
大至急御申込下さい！

コンクリート標準示方書
一、内容　土木ニュース前号参照
一、体裁　B6判　約二五〇頁
一、頒布實費　金百八〇円（会員に限り百五〇円）外に送料八〇円（まとまつた御申込は安くなりますが後で精算致します。）
一、申込金　申込と同時に全額拂込のこと
一、発行予定期日　昭和二十四年七月上旬

關門鉄道隧道工事誌
一、内容　土木ニュース前号参照
一、体裁　B5判　約六七〇頁　フランス表紙
一、頒布實費　八〇〇円但し会員に限り六〇〇円
一、送料實費　八〇円（現行規程による）但し取まとめて御申込の場合は安くなりますが後で精算致します。
一、申込金　出來るだけ全額御拂込下さい。若し御都合が悪ければ予約金として三〇〇円御願い致します。
一、発行予定期日　昭和二十四年七月下旬

水理公式集
一、内容　第一編河川、第二編発電水力、第三編上下水道、第四編港湾
一、体裁　B5判　約一六〇頁
一、頒布實費　金二〇〇円（会員に限り一割引）送料八〇円
一、申込金　申込と同時に全額御拂込のこと

土木工學叢書（既刊）
杉戸清著　下水道學（前篇）
一、体裁　B5判　二七二頁
一、定價　四六〇円（会員に限り五分引）外に送料八〇円
福田武雄著　木構造學
一、体裁　B5判　二六四頁
一、定價　四六〇円（会員に限り五分引）外に送料八〇円

學會論文集
第三号　臨時増刊号　昭和二二年二三年号　定價　一六〇円　一八三頁　送料五五円
第四號　六月発刊の予定　定價　二〇〇圓　一四〇頁　送料五五圓

右の中予約申込期日の切れたものもありますが残部多少ございますから至急御申込下さい。猶御申込は左記へ願います。猶まとまつた御申込は責任者を明記して下さい。又職場班を組織されている向はこれによると御便利です。

申込先
東京都千代田区大手町二丁目四（省線高架下七号）
土木學會